令和３年度第２回江別市かわまちづくり協議会　会議録（要点筆記）

日　　時：令和３年１０月２５日（月）　１４：００～１６：００
場　　所：江別市民会館３７号室
出席委員：小篠隆生会長、鴻野徹副会長、内田悟委員、町村均委員、林匡宏委員、
　　境珠美委員、藤原英大委員（計７名）
欠席委員：高橋利光委員
事 務 局：経済部長、経済部次長、商工労働課長、観光振興課長、企画政策部政策推進課長、建設部管理課参事、同主幹、建設部治水課長、商工労働課主査（２名）、他１名
アドバイザー：江別河川事務所（２名）
傍 聴 者：なし

会議概要

１．開会
２．議事
(1) 前回協議会の振り返り（説明：事務局 川島商工労働課長）
・　小篠会長：旧岡田邸の母屋の調査に立ち会ったが、母屋や隣の建物に依存して建っている防火壁は非常に歴史的な価値があるとの意見をもらっている。協議会や勉強会でも話が出ている旧岡田倉庫を移転した上での母屋との一体使用について、第三者調査をもとに評価し、旧岡田倉庫の詳細な移転場所、利活用を考慮した平面配置、隣の建物の対処について具体的な検討に入っていく必要がある。
(2) かわまちづくり勉強会開催報告（説明：事務局 川島商工労働課長）
・　内田委員：地元へのヒアリングは具体的に誰を対象に実施したのか。
・　川島商工労働課長：地元で生活・活動されている方を中心に、事務局からヒアリングを依頼しており、幼稚園の先生や大学生から意見をもらっている。今後、小中学校の児童・生徒からも意見をもらえるよう、学校側と調整しているところである。
・　小篠会長：かわまちづくり支援制度についてよくわからない中、地域の人たちと情報共有する形で勉強会が始まり、第３回勉強会から、河川区域だけでなく条丁目地区のまちづくりを含めた幅広い視点で考えていく必要があるとの意見が出てきた。これを踏まえて、第４回勉強会でグループワークにより議論したが、色々な属性の新しい人たちが勉強会に参加して議論をしており、まちづくりとしては良い方向に向かっていると感じている。かわまちづくり計画を策定していく中で、そうした議論を江別市の中でどうオーソライズし

ていくかが協議会の役割だと思うので、色々意見をいただきたい。

- 林委員：勉強会で非常に良い議論が積み重なっていると思う。日々のコミュニケーションを通じて勉強会に参加している人も一定数いるので、そういう人たちが意見を出しているのは非常に大事である。前回の勉強会では、このまちにどんな人に来てほしいかという本音の議論や、地元の人に対する魅力的なまちであると同時に子育て世代に訴求するようなまちづくりができれば将来性があるのではないかといった具体的な議論に及んでいる。色々な意見が出てくれば、事例紹介や先駆者へのインタビューといった次の展開がしやすいと思う。

(3) かわまちづくりの進め方について（説明：事務局 川島商工労働課長）

(4) かわまちづくり計画について（説明：事務局 川島商工労働課長）

(5) かわまちづくり計画書（素案）について（説明：事務局 川島商工労働課長）

- 林委員：外輪船や母屋を活用した専門性の高い事業スキームの実施にあっては、マーケティングやノウハウが必要になってくるので、今の協議会や勉強会のメンバーだけで事業を成立させるような検討をするのは厳しいと思う。誰かに相談したり先駆者にアドバイスを乞うことはできるのか。
- 境委員：町内の方は概ね、外輪船の移築後に法人化した観光協会が何かをやると思っていて好意的に受け止めている人が多い。観光協会の主な役割は観光事業者のバックアップやPRだと思う。誰が来てくれてどんな人が興味を持っていて、観光協会が何をするかがスタートラインになる。協議会のメンバーだけでは到底できないので、若者に河川のオープン化等の声掛けをしている。水辺でのビジネスに興味がある人に対する窓口的な対応をどこでするか、検討するタイミングに来ていると思う。
- 小篠会長：組織化と位置づけの具体的な議論を地域とする中で、ある程度の腹積もりがないと方向性がぶれることを懸念されていると思う。
- 内田委員：外輪船、母屋、関連設備の運営・管理が観光協会に求められると思う。お祭りの際に露店が140～150店出るが、露店実行委員会で場所代徴収、道路使用許可、電気・水道の供給、ゴミ処理、警備員配置等を行っており、これと同じことを観光協会が担うのがよいと思う。四季折々のイベントを一元管理し、その手数料で観光協会が利益を上げられるような形が必要だと思う。
- 町村委員：観光協会がかわまちづくりとどう関わっていくかはまだ決まっていないが、観光協会に対する期待の表れとして受け止める。
- 町村委員：条丁目地区のまちづくりに熱量を持つ方々が勉強会に参加し色々な意見が出てきていると思うが、今回のかわまちづくり計画は水辺の部分に関して申請するものであって、まちづくりに関する意見は十分網羅されない

と思う。水辺とまちづくりの議論を分けて考えていくことになると思うので、ロードマップについてもう少し説明してほしい。

- 川島商工労働課長：親水護岸、側帯、河川管理用通路等のハード整備は、かわまちづくり計画の方向性に基づいて主に国が整備することになり、具体的な整備内容は国・江別市・地元で協議・検討していくことになる。ソフト施策については、かわまちづくり計画の理念に基づいて、江別市・地元・実施主体で協議・検討していくことになる。誰かが整理しながら整備・利活用を実施していく形になると思うので、運営母体となるものが必要になり、かわまちづくり計画書に盛り込むことになる。まずは、かわまちづくりの方向性を出して、協議会や勉強会で議論してもらい、結果として出てきたものを具体的な案として進めていくことで考えている。
- 町村委員：かわまちづくり計画書申請後の次のステップとして、実施計画書的なものを新たに申請することになるのか、気になる。
- 濵口計画課長：ハード整備についてはかわまちづくり計画に基づいて実施することになるので、新たに計画書を提出する必要はない。河川管理者に申請する計画書なので、河川から外れたアクティビティ・サービス等の部分については、江別市の方で引き続き検討していただくことになる。
- 小篠会長：堤防の改修にあたり外輪船が支障物件になっていて、移設先が河川区域外でしかも母屋と一体で活用するべきとなっているので、江別市も議論に参加して、行政として条丁目のまちづくり計画の柱を立てておく必要がある。今回は、水辺とまちづくりの両方を議論しながらかわまちづくり計画を策定せざるをえない。また、かわまちづくり協議会の位置づけを明確にしておく必要がある。観光協会の話が出ているが、既存の組織に丸投げするような形でやると協議会の意味がなくなる。協議会が継続されていく中で、協議会の下に地域の意見を反映した事業を具現化する実行部隊を入れて、運営を協議会レベルで決定する流れが望ましいと思う。
- 町村委員：ハード整備案を具体的に提示しながらかわまちづくり計画を策定することになると思うが、ソフト施策として何をやるかは勉強会での議論が重要になってくる。まちづくり全体に係る部分について議論されるのは望ましいことだが、うまくハンドリングしながらやっていく必要がある。
- 小篠会長：観光協会を母体にするかもしれないが、条丁目地区のまちづくり全体を考えられる組織としてスタートを切らないといけないと思う。
- 林委員：協議会の今後を考えていく時期に来ており、今後も協議会で議論を継続していくことを勉強会で認識してもらう必要がある。次回以降の勉強会の議題を検討していかないといけない。協議会は、地域全体を視野に入れた意思決定や外部の相談窓口となるような組織になっていかないといけない。

- 林委員：現在、勉強会で色々な分野に関する議論が進んでいるので、是非関連する部署の方にもオブザーバーとして勉強会に参加してほしい。
- 小篠会長：勉強会でまちづくりに関連する意見要望を共有し、互いに良い知恵を出し合う環境を作らないとまちづくりが進まないと思う。協議会の意見として挙げたいと思う。
- 境委員：外輪船を移築する・しないまでがかわまちづくり計画に網羅されていればよいのか、外輪船の平面位置まで網羅する必要があるのか。江別小学校跡地を道の駅にする話や外輪船を川の駅にする話が網羅されてもよいと思う。今年度中にかわまちづくり計画を策定するのであれば、何をいつまでどこまで決めておく必要があるのか、わかりやすく整理しておく必要がある。誰がやるかの部分は、公平に公募をかけるのかどう決めるのか、慎重にやっていく必要がある。外輪船の利活用を具体的に進めるためには管理・運営の引継ぎが重要になるが、これまで議論をしてこなかったので、いつかどこかで必要になってくると思う。
- 川島商工労働課長：ハード整備については、ある程度の整備内容をかわまちづくり計画で示す必要があるが、ソフト施策や運営体制については、かわまちづくり計画で概要を示す程度で問題ない。詳細については今後詰めていくことになる。
- 境委員：何をどう進めるにしても、今までよりも透明性・公平性があり、地元の関心が高まって新しい人たちが参加してきているので、今後も継続して現状をきちんと伝えることが重要である。
- 川島商工労働課長：地元から話を聞きたいという要望があれば対応し、意見要望を協議会や勉強会にフィードバックすることも可能である。
- 藤原委員：観光協会について何も知らないまま議論が進んでいるというのが率直な感想である。事務局との兼ね合いもあるが、色々な人たちとの関わりの中で協議会が何のためにあるのかをみんなで議論・決定し、協議会を今後も継続してやっていくことが重要である。また、事業については、人によって収益・非収益、日常・非日常の組み合わせのイメージが異なるので、勉強会で共通認識を持ちつつ明確にすることで、一歩先に進めるような気がする。
- 小篠会長：既存の組織という土台があった方がゼロから作り上げるよりも運営がやりやすいという過程があり、観光協会が可能性の一つとして挙がった。地域の人たちがグループを立ち上げるのであればそれでよいが、現段階で軸になる人がいない。観光協会はまちづくりをやる組織ではないので、プラスアルファの機能が備わったような団体に進化する必要があり、それを議論・具体化するのが協議会の役割である。
- 岩渕経済部次長：観光協会はこれまで法人格ではなかったが、10 月から一般

社団法人の形で独立している。意思決定が必要になるので、前段として協議会で運営委託先を議論・決定してもらうことになる。

- 鴻野副会長：地域の人たちが勉強会に参加したり協議会を傍聴し、かわまちづくりに関する情報を収集することが重要である。個人が事業を行う際の手続きや資金支援等については、商工会議所が役割を担えると思う。
- 小篠会長：既存の色々な組織の支援を受けながら運営母体を作っていくことになる。江別市からの支援についても、今後議論していくことになると思う。
- 境委員：かわまちづくり計画書（素案）の「水辺とまちづくりの基本方針」について、観光、まちづくりのどちらを目指すか、協議会で決めていくのか。
- 小篠会長：「水辺とまちづくりの基本方針」については、現時点で全くの白紙と思った方がよいと思う。
- 川島商工労働課長：現状では、江別市の各種計画における方針を整理しており、勉強会での意見要望と関連した内容で再整理することになると思う。
- 小篠会長：勉強会でのボトムアップの話をトップダウンで進めるやり方で整理されているが、これをやると今までの話がすり抜けてしまう可能性があるので、勉強会で議論されている内容がどのような行政計画で対応できるのかといった整理内容にしたい。

３．その他

- 境委員：次回の勉強会は 11 月中旬開催と聞いているが、Zoom で開催するのか。勉強会の案内はこれまで通りホームページで行うのか。
- 川島商工労働課長：次回の勉強会は 11 月 16 日を予定しており、状況が許す限りこれまで通り、江別市コミュニティセンターで対面とオンライン参加を併用して開催したいと考えている。案内は、ホームページだけでなく広報えべつにも掲載しており、内田委員を通して自治会回覧の形でも周知している。
- 境委員：勉強会の参加者を公募したいのであれば、地域のコミュニティ新聞を活用するのもありだと思う。
- 川島商工労働課長：市議会等についても、ホームページと広報えべつに掲載しており、現時点で新聞を活用することは考えていない。
- 小篠会長：全市ではなく条丁目地区限定で全戸配布したいという時に、特別な配布はできないか。協議会から依頼するという形ではだめか。
- 藤原委員：回覧は見ても手元にチラシが残らない。
- 境委員：ミズベリング江別が勉強会に参加するという形でのチラシ配布はだめか。
- 小篠会長：条丁目地区限定であれば、自治会を通して全戸配布してもらうのもできるのではないか。
- 川島商工労働課長：今後検討させてほしい。

- 川島商工労働課長：次回の協議会については、勉強会の議論や新型コロナウイルスの状況にもよるが、今年度内に対面もしくは書面開催で協議をお願いしたい。
- 小篠会長：次回の協議会が、重要な議論の回になる。

４．閉会

以上